

消防

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	4 快適感を満たす環境のまち・雄武 生活環境・生活基盤の充実	会計区分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）	
18010010	基本施策	17 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B		基本施策（後期）を実現するために行 うべき事業
	単位施策	2 消防・救急体制の充実				
事業名	消防職員被服等貸与事業			担当課		消防雄武支署
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町		関係課	
事業指標	①防火衣更新数 ②新規採用職員数			数値目標	①17着 ②1人	

全体計画事業内容			令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
消防職員用防火衣一式更新 新規採用職員被服一式購入			消防職員用防火衣一式更新 3,195千円 新規採用職員被服一式購入 400千円		消防職員用防火衣一式更新 2,800千円 新規採用職員被服一式購入 800千円							
			年度別数値目標	①9着 ②1人		①8着 ②2人						
財 源 内 訳	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
	国庫支出金	0	0									
	道支出金	0	0									
	地方債	0	0									
	その他	0	0									
	一般財源	7,195	3,495	3,595	3,495	3,600						
合計(千円)		7,195	3,495	3,595	3,495	3,600	0	0	0	0	0	0
特 定 財 源	評 価 ・ 実 績		実施内容		消防職員用防火衣一式更新 新規採用職員被服一式購入							
			評価結果		A - 継続 / 現状維持							

事業名	消防職員被服等貸与事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	村田 康朗
		評価者 作成者 職氏名	主幹兼庶務係長	嶋村 猛

令和5年度実施
令和6年度評価

■ 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

誰、何が (対象)	消防職員	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	被服貸与人数	
抱える課題やニーズ	職員の安全を確保し、機能的な消防活動と秩序ある組織活動の推進	指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか (意図)	「紋別地区消防組合職員の服制に関する規則」に基づき、特殊性のある被服を購入し貸与する。	① 防火衣更新数	目標年度 目標値	令和5年度 9着
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	安全性を考慮した被服を着用し業務を実施することにより、組織的活動ができ、規律の向上につながる。	② 新規採用職員数	実績値	9着
			達成度	100.0 %
内容 (どのような手段で何を行ったか)	消防職員用防火衣一式更新	署内で防火衣の仕様を検討し、コストに見合った効果が得られる防火衣を納入。	目標年度	令和5年度
	新採用職員被服一式購入	新規採用職員1名分の被服を購入。	目標値	1人
			実績値	1人
			達成度	100.0 %

■ 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	「紋別地区消防組合職員の服制に関する規則」に基づき貸与している。
必要/概ね必要		<input type="checkbox"/> 全部	
/課題あり		<input checked="" type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	消防職員の安全性を確保する被服を貸与することができた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	消防業務で使用する被服であり、特殊な仕様のため大量生産できないこと。また、まとめて購入するなど事業費の削減に努めた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民の生命・身体及び財産を災害から守るために活動する職員の安全を確保するための被服であり、公平性と負担の適正化は図られている。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■ その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■ 総合評価【A～D】

A : 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B : ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C : 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D : 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
消防活動に支障をきたすことのないように計画どおり被服を貸与することができた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
多様化する災害現場活動に対応するため、安全性・使用頻度を的確に見極め、今後も被服を貸与する必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○ 休止 ○ 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	4 快適感を満たす環境のまち・雄武 生活環境・生活基盤の充実	会計区分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
18010020	基本施策	17 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	基本施策（後期）を実現するために行うべき事業
	単位施策	2 消防・救急体制の充実			
事業名	消防職員教育訓練事業			担当課	消防雄武支署
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町		
事業指標	①教育訓練人数 ②資格取得研修人数			数値目標	①年2人以上 ②年2人以上

全体計画事業内容	令和5年度 事業内容	令和6年度 事業内容	令和7年度 事業内容	令和8年度 事業内容	令和9年度 事業内容
消防職員としての専門知識及び技術の取得	消防学校救助科入校 211千円	消防学校救助科入校 230千円	消防学校警防科入校 130千円	消防学校警防科入校 130千円	消防学校警防科入校 130千円
・北海道消防学校入校	消防学校火災調査科入校 113千円	消防学校幹部科入校 130千円	消防学校救助科入校 230千円	消防学校救助科入校 230千円	消防学校幹部科入校 130千円
・大型一種自動車免許	消防学校救急科入校 139千円	消防学校初任教育入校 950千円	酸欠・硫化水素技能講習 90千円	消防学校幹部科入校 130千円	陸上特殊無線技士 60千円
・陸上特殊無線技士	消防学校初任教育入校 475千円	酸欠・硫化水素技能講習 90千円	刈払機取扱作業者 15千円	2級小型船舶操縦士 300千円	酸欠・硫化水素技能講習 90千円
・酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	消防学校初任教育入校 265千円	大型一種自動車免許 870千円	大型一種自動車免許 435千円	大型一種自動車免許 435千円	大型一種自動車免許 435千円
・2級小型船舶操縦士	防災士認証登録 9千円				防災士認証登録 9千円
・チェーンソー特別教育					
・刈払機取扱作業者					
・衛生推進者養成講習					
・防災士認証登録					
	年度別数値目標	①4人 ②2人	①4人 ②3人	①2人 ②3人	①3人 ②2人

		計画事業費	実績事業費										
財源内訳	国庫支出金	0	0										
	道支出金	0	0										
	地方債	0	0										
	その他	0	0										
	一般財源	6,461	912	1,212	912	2,270	0	900	0	1,225	0	854	0
合計(千円)		6,461	912	1,212	912	2,270	0	900	0	1,225	0	854	0

特定財源	評価・実績	実施内容	評価結果
		消防学校火災調査科入校 消防学校救急科入校 消防学校初任教育入校 2級小型船舶操縦士 防災士認証登録	A - 継続 / 現状維持

事業名	消防職員教育訓練事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	村田 康朗
		評価者 作成者 職氏名	主幹兼庶務係長	嶋村 猛

令和5年度実施
令和6年度評価

■ 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

誰、何が (対象)	消防職員	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	各種研修への職員派遣人数	
抱える課題やニーズ	高度な専門知識を習得する場合、教育期間が長期になるため、全職員の習得が困難である。	指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか (意図)	災害や事故の多様化及び大規模化、住民ニーズの多様化等の環境の変化に的確に対応するため、消防職員の専門知識及び技術の習得を目指した。	① 教育訓練人数	目標年度 目標値	令和5年度 4人
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	消防職員の資質向上及び専門知識の習得	② 資格取得研修人数	実績値	3人
			達成度	75.0 %
内容 (どのような手段で何を行ったか)	消防学校への職員派遣	初任教育1人、火災調査科1人、救急科1人の計3人を消防学校に派遣し育成した。		
	2級小型船舶操縦士	2級小型船舶操縦士免許保有者を1人増員した。		
	防災士認証登録	消防署雄武支署職員育成計画に基づき、消防司令補1人を認証登録した。		

■ 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の生命・身体及び財産を災害から守るため、各種訓練及び研修等、職員の資質向上が必要不可欠であり、ベテラン職員が減少し若年職員が増加していくなか、今後も実践的な教育訓練が必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	職員の資質向上を目指し、5人の職員が教育訓練を受け、知識・技術等を習得する。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	消防学校等において、実践的な訓練や研修を受けられるため、災害現場活動の効率が良くなる。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民の生命、身体及び財産を災害や事故から守るための事業であることから公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■ その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■ 総合評価【A～D】

A : 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B : ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C : 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D : 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
ベテラン職員が減少していくなか、災害現場等で活躍する若年層職員の実践的な教育訓練が行われ、短期間で成果を得ることができた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
ベテラン職員が減少していくなか、今後も若年層職員の教育訓練は必要不可欠であり、本町の防災体制の重要性を考慮すると今後も継続していく必要がある。			

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	4 快適感を満たす環境のまち・雄武 生活環境・生活基盤の充実	会計区分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
18020010	基本施策	17 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B 基本施策（後期）を実現するために行うべき事業	
	単位施策	1 災害予防対策の推進	担当課	消防雄武支署	
事業名	予防対策資器材整備事業			関係課	
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町		
事業指標	①予防対策資器材整備数 ②住宅用火災警報器設置率			数値目標	①7資器材 ②85%以上

全体計画事業内容			令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
防災訓練用資器材一式 消火器更新 防火・防災PR物品			防災訓練用資器材一式 防火・防災PR物品		消火器更新 防火・防災PR物品		防火・防災PR物品		防火・防災PR物品		防火・防災PR物品	
財 源 内 訳	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
	国庫支出金	0	0									
	道支出金	0	0									
	地方債	0	0									
	その他	0	0									
一般財源	1,580	580	580	580	700		100		100		100	
合計(千円)	1,580	580	580	580	700	0	100	0	100	0	100	0
特 定 財 源		評 価 ・ 実 績	実施内容		防災訓練用資器材一式 防火・防災PR物品							
			評価結果		A - 継続 / 現状維持							

事業名	予防対策資器材整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	村田 康朗
		評価者 作成者 職氏名	予防係長	津島 勇太

令和5年度実施
令和6年度評価

■事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

誰、何が (対象)	町民	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	2資器材の整備	
抱える課題やニーズ	町民一人ひとりの防火・防災意識及び行動力を向上させること。	指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか (意図)	煙疑似体験や火災予防運動期間に街頭啓発を行い、防災PR物品を配布する。	① 予防対策資器材整備数	目標年度	令和5年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	火災件数の減少、防火・防災意識の向上を目指す。	② 住宅用火災警報器設置率	目標値	2 資器材
			実績値	2 資器材
内容 (どのような手段で何を行ったか)	防災訓練用資器材購入	煙体験ハウス購入	達成度	100.0 %
	防火・防災PR物品購入	防災啓発物品購入	目標年度	令和5年度
			目標値	85 %
			実績値	78 %
			達成度	91.8 %

■事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	煙疑似体験や防災PR物品を配布することで防火・防災意識の向上を図るために必要である。
必要/概ね必要/課題あり		<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	避難訓練、防災訓練授業及び該当啓発(火災予防運動期間中)での使用、配布実績があるため有効であった。
有効/概ね有効/課題あり		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	資器材整備により時間短縮・作業軽減の効果が得られた。
効率的/概ね効率的/課題あり		<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

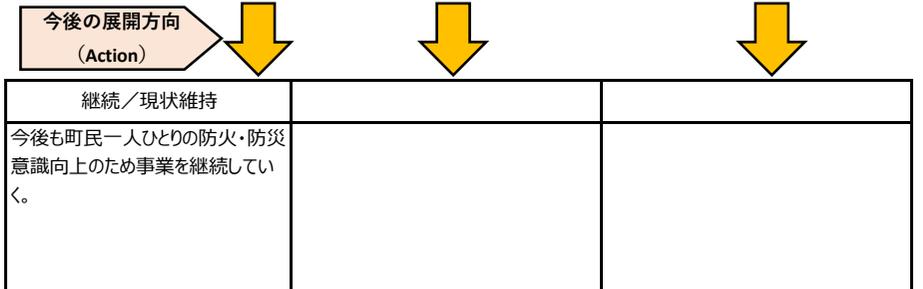
公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	資器材の整備及びPR物品の配布によって、町民一人ひとりの防火・防災意識の向上が図られることが期待できるため公平である。
公平/概ね公平/公平でない		<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A : 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B : ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C : 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D : 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
資器材を整備したことにより避難訓練等での使用実績、また、訓練内容のバリエーションが増えたとの声を聞いた。PR物品の配布等で防災意識の向上を図ったことにより事業の目標は達成する事ができたとと思われる。		



※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	4 快適感を満たす環境のまち・雄武 生活環境・生活基盤の充実	会計区分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
18030010	基本施策	17 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	基本施策（後期）を実現するために行うべき事業
	単位施策	2 消防・救急体制の充実			
事業名	消防資機材整備事業			担当課	消防雄武支署
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町		
事業指標	①保守点検実施数 ②消防資機材整備数			数値目標	①年1回 ②8資機材

全体計画事業内容			令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容		
・消防資機材の整備、充実 老朽化又は不足している消防資機材の充実を図る 救急資器材保守点検 消防ホース更新 空気呼吸器購入 空気呼吸器用高圧空気ボンベ更新 墜落防止用器具（フルハーネス）購入 墜落防止用器具（フルハーネス）更新 災害用ドローン購入			救急資器材保守点検	770千円	救急資器材保守点検	620千円	救急資器材保守点検	770千円	救急資器材保守点検	620千円	救急資器材保守点検	770千円	
			消防ホース更新	1,800千円	消防ホース更新	900千円	墜落防止用器具（フルハーネス）更新	300千円	消防ホース更新	900千円			
			空気呼吸器購入	1,320千円	空気呼吸器購入	750千円	墜落防止用器具（フルハーネス）購入	300千円	災害用ドローン購入	4,500千円			
			空気呼吸器用高圧空気ボンベ更新	750千円	墜落防止用器具（フルハーネス）購入	300千円							
			墜落防止用器具（フルハーネス）更新	300千円									
			災害用ドローン購入	4,500千円									
			年度別数値目標	①1回 ②5資器材	①1回	①1回 ②1資器材	①1回 ②1資器材	①1回 ②1資器材	①1回 ②1資器材	①1回 ②1資器材	①1回 ②1資器材		
財源内訳	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	
	国庫支出金	0	0										
	道支出金	0	0										
	地方債	4,500	4,400	4,500	4,400								
	その他	0	0										
	一般財源	9,820	4,710	4,940	4,710	620	0	1,670	0	920	0	1,670	0
合計(千円)	14,320	9,110	9,440	9,110	620	0	1,670	0	920	0	1,670	0	
特定財源	緊急防災・減債事業債		評価・実績		実施内容								
					救急資器材保守点検 消防ホース更新 空気呼吸器購入 空気呼吸器用高圧空気ボンベ更新 墜落防止用器具（フルハーネス）購入 災害用ドローン購入								
				評価結果		A - 継続 / 現状維持							

事業名	消防資機材整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	村田 康朗
		評価者 作成者 職氏名	警防係長	池田 雅司

令和5年度実施
令和6年度評価

■事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

誰、何が (対象)	町民		望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消防資機材の保守点検・整備数									
抱える課題やニーズ	現在の災害は年々複雑かつ多様化してきており、これらに対応するためには消防資機材の更新及び保守点検や新たな資機材を整備していく必要がある。		指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値									
どのような状態になることを目指したのか (意図)	現在、消防で保有している消防資機材は老朽化または不足しているため、災害現場において活動に支障をきたすことがないように、資機材の充実を図った。		①	保守点検実施数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和5年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1回</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1回</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100%</td></tr> </table>	目標年度	令和5年度	目標値	1回	実績値	1回	達成度	100%
目標年度	令和5年度												
目標値	1回												
実績値	1回												
達成度	100%												
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	消防の任務は町民の生命、身体及び財産を災害や事故から守ることであるため、迅速かつ適切な消防活動を行えるようにする。		②	消防資機材整備数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和5年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>5資機材</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>5資機材</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100%</td></tr> </table>	目標年度	令和5年度	目標値	5資機材	実績値	5資機材	達成度	100%
目標年度	令和5年度												
目標値	5資機材												
実績値	5資機材												
達成度	100%												
内容 (どのような手段で何を行ったか)	消防資機材の保守点検	救急資器材保守点検											
	消防資機材の整備	消防ホース更新、空気呼吸器購入、空気呼吸器用高圧空気ボンベ更新、墜落防止用器具 (フルハーネス) 購入、災害用ドローン購入											

■事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	国が定める消防力の整備指針に従い、対応する消防資機材を常に確保 (整備・点検) しておく必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	高度化する消火、救助及び救急活動に対応する資機材を確保できた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	適切な積算に基づき、可能な限りコスト削減に努め事業を行った。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民の生命、身体及び財産を守る拠点施設等の整備であり、公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A : 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B : ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C : 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D : 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
計画どおり消防資機材を整備し、災害現場での活動に支障をきたすことがないように努めることができた。		



継続/現状維持		
消防力を強化、維持していくためには今後も計画的に保守及び整備していく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

事業名	消防施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	村田 康朗
		評価者 作成者 職氏名	警防係長	池田 雅司

令和5年度実施
令和6年度評価

■ 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

誰、何が (対象)	町民	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消防施設の維持管理・整備数	
抱える課題やニーズ	消防施設の老朽化等	指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか (意図)	消防施設を維持管理、整備及び更新することにより、防災拠点としての機能を充実させる。	① 保守点検件数	目標年度	令和5年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果 = 目的	消防業務が総合的に強化、充実することにより、町民の安全・安心が保たれる。	② 消防施設整備数	目標値	2 件
			実績値	2 件
内容 (どのような手段で何を行ったか)	消防施設の維持管理・整備等の実施	保守点検 (消防ポンプ、消防庁舎他車庫シャッター)、整備工事等 (サイレン塔及びモーターサイレン取替、緊急通報指令設備PC等交換)	達成度	100 %
			目標年度	令和5年度
			目標値	2 施設
			実績値	2 施設
			達成度	100 %

■ 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	防災拠点としての消防施設及び機能は正常な状態に維持管理されなければいけないため、施設の整備は必要である。
必要/概ね必要/課題あり		<input type="checkbox"/> 全部	
		<input checked="" type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	消防施設の機能が適正に維持管理されることにより、消防力が維持され、消防業務を円滑に行える状態が保たれる。
有効/概ね有効/課題あり		<input type="checkbox"/> 達成	
		<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
		<input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	適切な積算に基づき、可能な限りコスト削減に努め、事業を行った。
効率的/概ね効率的/課題あり		<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
		<input type="checkbox"/> 人員削減	
		<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
		<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民の生命、身体及び財産を守る拠点施設等の整備であり、公平である。
公平/概ね公平/公平でない		<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
		<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
		<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
		<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■ その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■ 総合評価【A～D】

A : 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B : ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C : 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D : 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
消防ポンプ等の保守点検を行い、災害時に不備が無く活動することができた。また、施設整備を行い、防災拠点としての施設維持に努めることができた。		

今後の展開方向
(Action)



継続/現状維持		
今後においても、災害時の円滑な消防業務の遂行及び防災拠点としての消防施設を維持していくため、計画どおり整備更新等を進めていく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○ 休止 ○ 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	4 快適感を満たす環境のまち・雄武 生活環境・生活基盤の充実	会計区分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
18040010	基本施策	17 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	基本施策（後期）を実現するために行うべき事業
	単位施策	2 消防・救急体制の充実			
事業名	救急業務体制整備事業			担当課	消防雄武支署
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町		
事業指標	①救急救命士研修派遣人数 ②救急救命士研修回数			数値目標	①年6人以上 ②年3回以上

全体計画事業内容	令和5年度 事業内容	令和6年度 事業内容	令和7年度 事業内容	令和8年度 事業内容	令和9年度 事業内容
救急救命士育成（研修） 処置拡大2行為（研修） 気管挿管再認定（研修） 気管挿管病院実習 ビデオ硬性喉頭鏡病院実習 ビデオ硬性喉頭鏡（研修）	救急救命士育成（研修） （旅費）550千円 （負担金）71千円 処置拡大2行為（研修） （旅費）90千円 （負担金）40千円 気管挿管再認定（研修） （旅費）24千円 （負担金）10千円 気管挿管病院実習 （負担金）370千円 ビデオ硬性喉頭鏡病院実習 （負担金）40千円 需用費 34千円	救急救命士育成（研修） （旅費）550千円 （負担金）71千円 気管挿管再認定（研修） （旅費）44千円 （負担金）20千円 気管挿管病院実習 （旅費）240千円 （負担金）370千円 ビデオ硬性喉頭鏡病院実習 （負担金）40千円 ビデオ硬性喉頭鏡（研修） （旅費）47千円 （負担金）40千円 需用費	救急救命士育成（研修） （旅費）550千円 （負担金）71千円 処置拡大2行為（研修） （旅費）90千円 （負担金）40千円 気管挿管再認定（研修） （旅費）64千円 （負担金）30千円 需用費 34千円	救急救命士育成（研修） （旅費）550千円 （負担金）71千円 処置拡大2行為（研修） （旅費）90千円 （負担金）40千円 気管挿管再認定（研修） （旅費）44千円 （負担金）20千円 気管挿管病院実習 （旅費）240千円 （負担金）370千円 ビデオ硬性喉頭鏡病院実習 （負担金）40千円 需用費 34千円	救急救命士育成（研修） （旅費）550千円 （負担金）71千円 処置拡大2行為（研修） （旅費）90千円 （負担金）40千円 気管挿管再認定（研修） （旅費）44千円 （負担金）20千円 気管挿管病院実習 （旅費）240千円 （負担金）370千円 ビデオ硬性喉頭鏡病院実習 （負担金）40千円 需用費 34千円
年度別数値目標	①8人以上 ②5回	①8人以上 ②5回	①6人以上 ②3回	①8人以上 ②5回	①8人以上 ②5回

財源内訳	計画事業費	実績事業費	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度	
			計画事業費	実績事業費								
国庫支出金	0	0										
道支出金	0	0										
地方債	0	0										
その他	0	0										
一般財源	6,562	359	1,229	359	1,456	0	879	0	1,499	0	1,499	0
合計(千円)	6,562	359	1,229	359	1,456	0	879	0	1,499	0	1,499	0

特定財源	評価・実績	実施内容	評価結果

事業名	救急業務体制整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	村田 康朗
		評価者 作成者 職氏名	救急係長	阿波 祐介

令和5年度実施
令和6年度評価

■事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

誰、何が (対象)	職員 (救急救命士)	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	研修計画に基づく救急救命士の派遣	
抱える課題やニーズ	救急活動の充実	指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか (意図)	救急活動に救急救命士が出勤し、重度傷病者に高度な救命処置を実施する。	① 救急救命士研修派遣人数	目標年度	令和5年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	研修を受講することにより、救急救命士が高度救命処置を実施できるようになり、重度傷病者の救命率の向上や予後に抱える後遺症の軽減を図ることができる。	② 救急救命士研修回数	目標値	8人以上
			実績値	5人
内容 (どのような手段で何を行ったか)	・救急救命士育成 (研修)	札幌の病院で行う実習は受入人員の削減により今年度は派遣できなかったが、北見WS研修やドクターヘリ事例検討会などの生涯教育は行った。	達成度	62.5%
	・処置拡大2行為 (研修)		目標年度	令和5年度
	・気管挿管再認定 (研修)		目標値	5回
			実績値	5回
			達成度	100%

■事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	救急救命士の生涯教育及び実習は義務付けとなっている。
必要/概ね必要 /課題あり		<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	処置拡大2行為と気管挿管再認定の2研修は達成できた。
有効/概ね有効 /課題あり		<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	救急救命士が研修を受けたことにより、町民に対し高度な救命処置を実施できる資格を取得した。
効率的/概ね効率的 /課題あり		<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	救急救命士の資質向上を図り、救急傷病者に対し高度な救命処置が実施できる。
公平/概ね公平 /公平でない		<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A : 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B : ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C : 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D : 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
受入人員の削減により気管挿管病院実習とビデオ硬性喉頭鏡病院実習に派遣できなかったが、救急救命士が研修を受けることにより、救急傷病者に対し有効な救命処置ができるようになり手技の向上が認められるため今後も必要と考える。		

今後の展開方向
(Action)



継続/現状維持		
町民に対し高度な救急活動を行うことが安心できる街づくりを目指すには必要であり、継続事業であることが適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	4 快適感を満たす環境のまち・雄武 生活環境・生活基盤の充実	会計区分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）	
18050010	基本施策	17 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B 基本施策（後期）を実現するために行 うべき事業		
	単位施策	2 消防・救急体制の充実				
事業名	消防団活性化事業			担当課	消防雄武支署	
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町		関係課	
事業指標	①消防団員数 ②被服等整備率			数値目標	①110人（定数）②100%	

全体計画事業内容			令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
団員年報酬 団員福利厚生 団員被服整備			団員年報酬 団員福利厚生 団員被服整備		団員年報酬 団員福利厚生 団員被服整備		団員年報酬 団員福利厚生 団員被服整備		団員年報酬 団員福利厚生 団員被服整備		団員年報酬 団員福利厚生 団員被服整備	
財 源 内 訳	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
	国庫支出金	0	0									
	道支出金	0	0									
	地方債	0	0									
	その他	0	0									
	一般財源	28,492	5,592	5,692	5,592	5,700		5,700		5,700		5,700
合計（千円）	28,492	5,592	5,692	5,592	5,700	0	5,700	0	5,700	0	5,700	0
特 定 財 源		評 価 ・ 実 績	実施内容		団員年報酬 団員福利厚生 団員被服整備							
			評価結果		A - 継続 / 現状維持							

事業名	消防団活性化事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	村田 康朗
		評価者 作成者 職氏名	副支署長兼消防団係長	高宮 幸広

令和5年度実施
令和6年度評価

■事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

誰、何が (対象)	消防団員 (町民)		望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消防団員の確保及び、訓練等による組織の活性化		
抱える課題やニーズ	若年層の新規入団者を望んでいるが、少子高齢化社会の影響並びに地元での就職が減少し入団対象者が少ないため、消防団活動の魅力アピールし、入団促進の強化を図ることが課題である。			指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか (意図)	魅力ある消防団活動の実現を目指した。		①	消防団員確保	目標年度	令和5年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果 = 目的	・消防団員定数の確保 (男性団員100人：女性団員10人) ・消防団員の資質と技量の向上	②			被服等整備率	目標値
			実績値			109人
内容 (どのような手段で何を行ったか)	ホームページ及び掲示板による周知	北海道消防協会ホームページによる消防団の活動周知及び、消防庁舎前の掲示板に消防団の活動内容を記載したパンフレットと北海道消防新聞 (北海道消防操法訓練大会での活躍と受賞の写真) の掲示を引き続き実施した。	達成度			99.1 %
	被服の支給		新入団員への消防団活動に必要な被服等を支給した。	目標年度		令和5年度
	訓練費用の支給		災害を想定した訓練に対し、出勤費を支給した。	目標値	100 %	
			実績値	100 %		
			達成度	100 %		

■事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の生命財産を災害から守るため、研修及び訓練を通じ団員の資質及び技術向上を目標とすることが必要であることや、団員の高齢化が進むなか若年層の新規入団も必要とされる。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	団員数についてはベテラン団員の退団等により目標値を1人下回ったが、100人以上の団員数を確保できているため、全体の目標はほぼ達成されたと評価する。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	雄武消防団連合消防演習の実施により、規律や指揮伝達を遵守することで、災害現場等での効率的な活動が期待できるため、活動時間の短縮につながるものと考える。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	全町民を対象とした事業のため、公平と評価する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A : 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B : ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C : 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D : 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
令和5年度の団員確保数は目標値を1人下回ったが、団員数については前年度に引き続き100人以上を確保することができた。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
町民の防災意識の高揚、雄武町としての防災体制の重要性を考慮し、今後も継続して組織の活性化に努めるとともに、若年団員の確保については、消防団幹部の協力を得て、入団促進をより一層強化していく必要がある。			

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止